

## 第14回（1年生）

1. 日 時：令和5年9月22日（金）13：30～15：30
2. 場 所：へきしんギャラクシープラザ大会議室
3. テーマ：「愛知県の経済の特色」
4. 講 師：茶谷 淳一先生（名古屋短期大学教授）
5. 出席者：18／19名
6. 内 容



- 2008年からのリーマンショック、東日本大震災、気候変動による災害、コロナによる経済打撃によっても、愛知県は製造業が日本1位。
- 物作りが好調な理由は、①地方から若い働き手が集まってくる、②残業もあり給料が高い、③失業者も少ない等である。
- 愛知県内に3つの工業系大学（名古屋大学・名古屋工業大学・豊橋技術科学大学）がある。また、トヨタ・三菱自動車の関連会社も多くある。そのため、ライバル視するのではなく互いが連携し、よりよい製品を作ろうと切磋琢磨している。協力を惜しまない風土もある。金融機関も数多くあり、競争が激しいため金利が低いのも特徴である。
- 工業ばかりに目がいくが、農業分野でもトップである。（菊・ラン・キャベツ等）
- 首都圏に比べ地価も安く一戸建てが多いため家族消費も高い。首都圏より物価も安い。
- 50～60歳代の女性の労働人口が高い。また、首都圏に比べ核家族が少なく3世代家族が多い。そのため、子ども・孫への投資は多い。
- 高齢者は比較的元気で、医療への支出が首都圏・関西圏より低い。
- 東海・愛知経済に今（将来）必要なこと。新しい技術、次世代を担う人材育成を図る事。また、子育てしやすい町づくりを進めること。そのことが全国から人が集まる要因となる。

## 7. 感想

固苦しいテーマだと思っていたが、時々ジョークもあり分かりやすい講座であった。愛知の経済の活性の要素があることを改めて認識できた。

この安城市においては、建ち並ぶ高層ビルの中に衣食住、レジャー関連施設が入っている箇所が目立ち始めていると思う。半面、昔ながらの商店が減少しつつあり、さみしさも感じている。住民の生活全体を潤し、ウェルビーイングな環境がさらに整えられれば、暮らしやすく、住みよいまちづくりが進む。そのためには、財力が必要であることも理解でき、経済の深さと広がりを知ることができた。